

弥生文化の輪郭

灌漑式水田稲作は弥生文化の指標なのか

The Frame of the Yayoi Culture : Is Wet Rice Cultivation with Irrigation System
an Indicator of the Yayoi Culture?

藤尾慎一郎

FUJIO Shin'ichiro

はじめに

①藤本強の前一千年紀の列島内諸文化

②弥生文化とはどんな文化なのか

③弥生文化の質的要素

④「中の文化」の細分

⑤弥生文化の輪郭

おわりに

【論文要旨】

本稿では、弥生文化を、「灌漑式水田稲作を選択的な生業構造の中に位置づけて、生産基盤とする農耕社会の形成へと進み、それを維持するための弥生祭祀を行う文化」と定義し、どの地域のどの時期があてはまるのかという、弥生文化の輪郭について考えた。

まず、灌漑式水田稲作を行い、環壕集落や方形周溝墓の存在から、弥生祭祀の存在を明確に認められる、宮崎～利根川までを横の輪郭とした。次に各地で選択的な生業構造の中に位置づけた灌漑式水田稲作が始まり、古墳が成立するまでを縦の輪郭とした。その結果、前10世紀後半以降の九州北部、前8～前6世紀以降の九州北部を除く西日本、前3世紀半ば以降の中部・南関東が先の定義にあてはまることがわかった。

したがって弥生文化は、地域的にも時期的にもかなり限定されていることや、灌漑式水田稲作だけでは弥生文化と規定できないことは明らかである。古墳文化は、これまで弥生文化に後続すると考えられてきたが、今回の定義によって弥生文化から外れる北関東～東北中部や鹿児島でも、西日本とほぼ同じ時期に前方後円墳が造られることが知られているからである。

したがって、利根川以西の地域には、生産力発展の延長線上に社会や祭祀が弥生化して、古墳が造られるという、これまでの理解があてはまるが、利根川から北の地域や鹿児島にはあてはまらない。古墳は、農耕社会化したのちに政治社会化した弥生文化の地域と、政治社会化しなかったが、網羅的な生業構造の中で、灌漑式水田稲作を行っていた地域において、ほぼ同時期に成立する。ここに古墳の成立を理解するためのヒントの1つが隠されている。

【キーワード】 弥生長期編年、ボカシの文化、網羅的・選択的生業構造、拡大再生産